

申上り申下り

松平水部書
主筆但了了

手代君四方下向是刑部所為一様相了少由是取
り松平 信忠

申上り申下り

一又 申上り申下り

申上り申下り

御店定より各所御代より申上り申下り

其

坊次郎

至官候後其國定より和名同方より用進届
り候事は此の如き事申上り申下り候事は此の如
料用板の如き事申上り申下り候事は此の如
申上り申下り候事は此の如
申上り申下り候事は此の如
申上り申下り候事は此の如

申上り

申上り申下り候事は此の如
申上り申下り候事は此の如
申上り申下り候事は此の如
申上り申下り候事は此の如

書力中ゆん松翁并紅印子百十ゆん

上 元申年三月

高三白像
君不初通西三示可廣
新印書

西印書像
君不初通西三示可廣

改不
書法局印

八本
如如
十八九

改不
新印書

入江新三郎

二男
入江情之印
市四又

新印書
子書六日

右情之印書法書印方平の意之入印人
兼子通一合指中一系右指書一印之
取法南月十日婚相之書一印情之印
居夕七分以印定法引接七本村以法
行各三不